

<株式会社エフエム東京 第 509 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 6 年 6 月 4 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（4 名）

佐々木 俊尚	委員長代理	山口 真由	委員
柴崎 友香	委員	福里 真一	委員

◇欠席委員（2 名）

ロバート キャンベル	委員長	松田 紀子	委員
------------	-----	-------	----

◇社側出席者（6 名）

唐島 夏生	代表取締役会長
黒坂 修	代表取締役社長
内藤 博志	取締役編成制作局長
宮野 潤一	編成制作局次長 兼 編成部長
山領 由紀	編成制作局制作部長
高橋 智彦	編成制作局制作部 プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（205 分／ダイジェスト 37 分）

『JA 全農 COUNTDOWN JAPAN 50 YEARS ANNIVERSARY PARTY
～from 渋谷スペイン坂スタジオ～』

2024 年 4 月 29 日（月・祝）11：30～14：55 生放送

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2024 年 4 月度 聴取率調査結果

ビデオリサーチ 2024 年 4 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果を報告します（調査期間：2024 年 4 月 15 日～21 日）。今回、6:00～24:00 の週平均におきまして、TOKYO FM はコアターゲット【男女 18～49 歳】区分、また【男女 12～59 歳】、【男女 12～69 歳】の主要 3 区分において、在京首位を獲得することができました。

- ◎【男女 18～49 歳】首位（※単独首位）
- ◎【男女 12～59 歳】首位（※単独首位）
- ◎【男女 12～69 歳】首位（※ニッポン放送と同率首位）

今回は、当社コアターゲット【男女 18～49 歳】と【男女 12～59 歳】区分は、22 年 2 月以来 14 期連続首位、さらに個人全体区分の【男女 12～69 歳】では 22 年 4 月以来、13 期連続首位と、連続記録を伸ばすことができました。

各年代区分では上記のほか、【M1F1（男女 20-34 歳）】【M2F2（男女 35-49 歳）】、【男女 20 代】、【男女 30 代】、【男女 40 代】、【男女 50 代】と幅広い年代でも引き続き首位を獲得することができました。また、当社コアターゲットのみならず、ラジオのボリューム層である【男性 50 代】で、他局と大きく差をつけての単独トップを獲得、【女性 60 代】では、週平均で過去最高のスコアで在京単独トップを獲得するなど、幅広い層から支持を得る結果となりました。

年度始めの 4 月度結果を首位発進することができましたが、次回 6 月調査では更に差をつけての単独首位を目指し、編成制作では引き続き番組内容の精査、話題性のあるコンテンツ開発、PR に磨きをかけてまいります。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】

『JA 全農 COUNTDOWN JAPAN 50 YEARS ANNIVERSARY PARTY
～from 渋谷スペイン坂スタジオ～』

2024 年 4 月 29 日 (月・祝) 11 : 30～14 : 55 生放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、4 月 29 日 (月・祝) に放送したホリデースペシャル『JA 全農 COUNTDOWN JAPAN 50 YEARS ANNIVERSARY PARTY ～from 渋谷スペイン坂スタジオ～』です。

この番組は、毎週土曜 13 時から生放送しているオリジナルチャート番組『COUNTDOWN JAPAN』(前身番組『歌謡ベスト 10』) の 50 周年記念として放送しました。パーソナリティは、現在『JA 全農 COUNTDOWN JAPAN』でパーソナリティをつとめるジョージ・ウィリアムズ、安田レイが務め、1993 年から 2016 年まで『COUNTDOWN JAPAN』を放送していた渋谷スペイン坂に 1 日限定の特設スタジオをオープンし、約 3 時間半にわたり公開生放送でお届けしました。スタジオゲストには、ゴスペラーズ、GENERATIONS 小森隼、乃木坂 46 田村真佑、松本ともこ、コメントゲストには Perfume、荘口彰久、落合隼亮、麻木久仁子など、本番組に縁のある方をはじめ、様々な世代のスターを招いてお届けしました。



1 日限定の渋谷スペイン坂スタジオ (渋谷 PARCO 10F ComMunE)



1994 年から 2003 年までパーソナリティを務めた松本ともこをゲストに迎えて

▼番組構成【205 分】

- 11:30- 番組オープニング
- 11:45- コメント (SixTONES)
チャート楽曲振り返り
- 12:00- 2003 年～2006 年 MC コメント (落合隼亮)
コメント (Perfume)
チャート楽曲振り返り
- 12:30- ゲスト (ゴスペラーズ)
- 13:00- 1994 年～2003 年 MC ゲスト (松本ともこ)
1990 年～1994 年 MC コメント (麻木久仁子)
チャート楽曲振り返り
- 13:30- ゲスト (乃木坂 46 田村真佑)
- 14:00- 2006 年～2012 年 MC コメント (荘口彰久)
チャート楽曲振り返り
- 14:30- ゲスト (GENERATIONS 小森隼)
- 14:50- 番組エンディング

▼ダイジェスト版構成【約 37 分】

- 00:00-4:00 番組オープニング【4 分】
- 04:00-25:00 ゲスト 松本ともこ (1994 年～2003 年番組 MC)【21 分】
- 25:00-30:00 コメント 荘口彰久 (2006 年～2012 年番組 MC)【5 分】
- 30:00-35:00 過去番組ジングル (1975 年)【5 分】
- 35:00-37:00 番組エンディング【2 分】



1993 年オープンした年のスペイン坂スタジオ

※参考 『COUNTDOWN JAPAN』 とは…

1974 年 4 月ステレオ歌謡バラエティから独立して土曜日の午後 1 時に、『三和シャッター歌謡曲ベスト・テン』がスタート。1991 年 10 月タイトルを『KOSE カウントダウン・ジャパン』に変更。1993 年 6 月 19 日に東京・渋谷 PARCO に TOKYO FM スペイン坂スタジオがオープンし、同日よりスペイン坂スタジオからの生放送に。2016 年 8 月 6 日、渋谷 PARCO の建て替えに伴い、スペイン坂スタジオからの放送を終了。同 8 月 13 日から東京・半蔵門の本社スタジオに戻り、「アースギャラリー」から生放送中。2024 年に『三和シャッター 歌謡曲ベスト・テン』から数えて 50 周年を迎えました。

期間	タイトル	男性	女性
1974.4.6 1975.3.29	三和シャッター 歌謡曲ベスト・テン	山崎唯	宿谷このみ
1975.4.5 1985.5.25	コーセー化粧品 歌謡ベスト10	宮川泰	丸木陽子
1985.6.1 1985.7.27			田中美登里
1985.8.3 1987.9.26			相本久美子
1987.10.3 1989.9.30			河野多紀
1989.10.7 1990.3.31	KOSE 歌謡ベスト10	深野義和	早坂あきよ
1990.4.7 1990.9.29			麻木久仁子
1990.10.6 1991.9.28	KOSE カウントダウン・ジャパン	深野義和	松本ともこ
1991.10.5 1994.10.29	LAWSON カウントダウン・ジャパン		
1994.11.5 1996.9.28	DAIHATSU カウントダウン・ジャパン	落合隼亮	水木ゆうな
1996.10.5 2002.3.30	Vodafone カウントダウン・ジャパン		遠藤久美子
2002.4.6 2003.9.27	カウントダウン・ジャパン	荘口彰久	河辺千恵子
2003.10.4 2005.3.26	DHC カウントダウン・ジャパン		高樹千佳子
2005.4.2 2006.3.25			皆藤愛子
2006.4.1 2007.3.31	DHC COUNTDOWN jp		中田有紀
2007.4.7 2008.3.29			鈴木杏
2008.4.5 2010.1.30	COUNTDOWN jp		にしおかすみこ
2010.2.6 2010.2.27	JA全農 COUNTDOWN JAPAN	ジョージ・ウィリアムズ	MISATO
2010.3.6 2010.3.27			ホラン千秋
2010.4.3 2011.3.26	現在		安田レイ
2011.4.2 2012.3.31			
2012.4.7 2013.3.30			
2013.4.6 2017.3.25			
2017.4.1			

(Wikipedia より)

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○50周年記念特別番組ということで、長時間だが賑やかで楽しかった。時代順に分けるのではなく、いろいろな曲がかかるので次に何がかかるのか意外性があった。特にポピュラーミュージックは生活の中に結びついていて、時代や個人の記憶が引き出されるものだと実感した。例えば、モーニング娘。の「LOVE マシーン」が流れると、会社員時代のことが急に思い出されるなど。昨年秋放送のサザンオールスターズの特集の時にも思ったが、ヒット曲の影響力の大きさとそれを届けるラジオの存在感がよく分かる番組。作業をしながら聴いていたが、日常生活の中で、思わず曲に合わせて口ずさんでしまうラジオの良さを伝える番組だった。

○もう少し古い曲がかかっても良いかと思ったが、この20年のゆかりのある方々を中心にお話を伺う構成は、現在の番組につながるという意図があったのかもしれない。スペイン坂スタジオの懐かしい光景が思い出されて、今はなかなか難しいかもしれないが、距離の近さとライブ感を感じられる場は重要だと思う。

○音楽がかかった瞬間に「ああ、あの時代」と思わせてくれるので音楽とはすごいと思った。パーソナリティが90年代のヒットソングを紹介しながら、一番CDが売れた時代と言っていたが、みんなカウントダウン番組を見て、次の日にその話をしていた時代。圧倒的にマスに力があつた。現在のカウントダウン番組にはどのような意義があるのだろうと思いながら聴いたが、ガッツリ聴き込まなくても、いい曲が流れてくるなという気持ちで聴けるので、カウントダウン番組はラジオのコンテンツとしてはとてもいいと思う。

○50年というのとはにかくすごい。今番組に関わっている方がほぼ生まれていない時から始まっているもの。それだけ続くというのは企画のシンプルさ、ベスト10を発表するのはものすごくシンプルな構成だが、結局は一番興味をひくことだと思う。広告業界でも一番長く続いているシリーズに「そうだ 京都、行こう。」がある。30年も続いている広告だが、何かを付け加えるでもなく、いつも通りのBGMに京都の美しい風景を映すというのが結局は色あせずに続いている。それと同じでベスト10を発表するというのシンプルだがみんなが一番好きなフレームなのかと思う。

○ゲストの方々は今一線で活躍している方が多く、もちろんそれが現在と繋いでいる形でいいというものもあるが、その方たちが出演すると、最近の活動や、その方々がどんなふう活動してきたかという話がメインになってしまうので、もう少し番組の50周年を語るに相応しい方がゲストでも良かったように思う。

○一番面白かったのは、スペイン坂での第 1 回目の放送の音源が流れて「こういうのがあるのか」と。この番組に限らず、もし局内に過去の音源があるならアーカイブスといった形で、昔の音源を聴けるような番組があったら面白いのではないかと思う。

○カウントダウン番組というのは、テレビでも昔からあって、それを見て今何が流行っているかというのを全員が知る、ということがあった。ある種の社会での共有。それが今は乏しくなっていて、「ベストヒットとは一体なんだ？」というのが問われていると思う。少し前までは CD の売り上げチャートが唯一の基準だったのを、アイドルが握手券を売るようになるとそればかりが上位に入り反論があったり、最近だと CD の売り上げだけではなく SNS やサブスクでの再生回数などを入れた新しいチャートが出てきて、そちらの方が実態に合っているとされている。その一方で、そもそもみんなが聴いている音楽はもうないのでは、という意見もある。確かに音楽自体がクラスター化していて、少しでもジャンルが違っていると話がかみ合わない。武道館公演を実施するアーティストを知らない人がたくさんいる、というようなことも起きている。それを踏まえて今回この番組を聴いて思ったのは、別に自分が好きで聴いていた音楽じゃなくても流れてきて「知ってる」と思った音楽が多い。80 年代とか 90 年代で、当時熱心に聴いていたわけでもファンでもないし、忙しくてあまりテレビも見えていなかった時期もあるのに、やっぱり曲が流れていると知っていて、街やラジオで流れていたりする時代の風景を感じた。それが 2020 年代のサブスク全盛期ではみんなが自分の好きな音楽だけを聴くようになり、時代の風景としての音楽としては薄れてしまっていて、それを復権させるのがラジオの今後の方向性の 1 つとしてあってもいいのでは、と期待する。

■この番組は、JFN38 局でオンエアされた回数、北海道から沖縄まででその曲が週に何回流れたかということがランキングのベースになっていて、日本最大級の FM チャートとして 50 年続いてきたということがある。貴重なご意見を参考に今後の番組作りに活かしたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

6月29日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>